



石垣市の女性と男性のひろば



第32回全沖縄美化コンクールで、みごと県知事賞を受賞した白保婦人会。ふるさとを緑と花で包む運動を推進し、地域の環境美化に努め、1人ひとりが美しい自然を愛護する心を育み、緑豊かで明るく住み良いふるさとづくりをめざそうと、婦人会を中心に老人会、小中学校、公民館等と地域ぐるみの活動を展開していることが大きく評価された。高原クニ会長は、「この賞は地域全体で受けた賞です。これからも心と花いっぱい運動に地域とともに推進していきたい」と元気いっぱいのみなさんでした。

# 「いしがきプラン」推進市民フォーラム

★ ともに支え ともに輝く 社会をめざして ★

女性と男性ともに参画し個性豊かに生きることのできる社会の実現をめざして、様々な分野からの意見交換を行い「いしがきプラン」に対する認識を高め、ともに輝き生き生きと暮らせるまちづくりを推進しようと、去る2月23日午後7時より石垣市民会館中ホールにおいて「いしがきプラン」推進市民フォーラムが開催されました。

フォーラムでは、はじめに大演長照市長が「男女共同参画社会はことばで言うのは簡単ですが、長く追いつける理想的な男女関係だと思う。基本的には人間の尊重が大事で良い家庭・よい社会をつくるためにも男女両方の目の高さや視野が必要」とあいさつしました。引き続きメンズリブ沖縄の新垣榮氏が「男らしさから自分らしさへ」と題しメンズリブ（男らしさからの解放）の活動をはなし、また、「男らしさ、女らしさを否定することではなく、そのために苦しんでいる人たちがいたら救って行かなければならないのがジェンダーフリーの活動だと思う。自分自身を好きになることが自信につながる」と基調講演を行いました。その後「ともに支え ともに輝く 社会をめざして」をテーマにシンポジウムが開かれました。

## 講師及びパネリストのプロフィール

### ◆講師兼パネリスト

新垣 榮：メンズリブ沖縄代表・おきなわCAPセンターのメンバー。現在豊見城市役所職員、沖縄県や那覇市の男女共同参画会議の委員も務める。共著に「窓をあければ」がある。

### ◆コーディネーター

東 新太郎：八重山商工高等学校校長  
「いしがきプラン」地域推進委員

### ◆パネリスト

次呂久成 巖：石垣市青年団協議会  
「いしがきプラン」地域推進委員  
宮良 妙子：白保婦人会・畜産経営



## 次呂久さん

石垣市青年団協議会は、八つの市の青年会が加盟しています。人数の方は約150人ほどです。昔に比べると人数もだいぶ減って、天然記念物に近くなるような人数ですけども、その中でも一生懸命頑張っています。

私は青年団協議会の監事をしていますが、その上に沖縄県青年団協議会というのがあります。40市町村が加盟しており、人数は約1万人ほどいます。



パネリストの次呂久さん

八重山の青年会は、体力的には男女の差はありますが、それ以外は男だから、女だからという事はありません。舞踊研究所の方に通って、「母の日」公演などに出演させてもらって

ます。初めて出たときは250人ほどの踊り手の中に、男は私1人で、今思えば逆の立場で女性の社会に入って肩身の狭い思いをしました。今までの生活習慣のなかで、男らしさ、女らしさがつくられてきたと思います。その固定概念がジェンダーではないかと思います。

私は長男の長男として祖父母に育てられました。祖父母は明治・大正時代の人で育て方、扱いが違っていました。小さい頃は、僕も男だから当たり前と思っていたんですが、今思えば自分が結婚して子どもができた時に、時代の流れもあるでしょうが、そういう考えはいけないな、とつくづく感じるがありました。

妻の出産が3週間ほど早くなりまして早期胎盤剥離で母子とも危ないと言われ、先生に同意書を書かされたのです。その時に男は何もできないとつくづく思いました。一人一人のジェンダーに対する意識の改革、理解が一番大事じゃないかと思っています。

## 宮良さん

私は現在40才、高校1年生から小学1年生までの4人の子を持ち、仕事は畜産を自分名義で営んでいます。

私が学生の頃の人権学習は、社会に認識されていない男女平等感が主で、女性だからと言わず自分らしく生きることが求められ、ウーマンパワーという言葉に憧れそこに自己確立を見出ししていくという考え方が社会の主な流れでした。

結婚後、子供を産み育てながらも、職業を持ち、自分らしく生きて行くことを模索しているとき夫は、「自分を生かせる活動はいくらでもある、できることの協力は惜しまない」と話してくれました。その一言は私の大きな支えとなり地域の文化活動や婦人会活動を積極的に関わって行くなかで、いかに婦人会が地域を支え、地域に意見でき、社会を作り得る団体であるかということがわかりました。

夫に市議の要請があり、夫の決意と自分の行動を夫に合わせるという生活が始まることを考えた時こんな言葉が私を納得させてくれました。「自分自身は社会の中で活躍することがなくても、パートナーが社会に貢献することで社会に影響を与える力となる。」ということばで夫の市議という仕事を支える覚悟をしました。

現在私は畜産を経営し、認定農家として登録し、やり甲斐を感じています。畜産を仕事としてから、家庭内での仕事に負担を感じるようになり、家族はみんな協力して生活するものと夫や子供たちに協力を訴え続けました。いまでは、自分の出来ることに気づき、「お願ね」「ありがとう」「ご苦労さん」と自然に互いに会話を交わすようになっていきます。

パートナーである夫が充実した人生が送れるように支えてきたことが、夫の励ましを受け、自分の職業を確立することができ、自己決定や自己責任という自立の自信が時間的なゆとりを生み地域活動にも関われる豊かさがうまれてきました。肝心なことは、常に自分の気持ちを相手に伝えること、パートナーの思いを聞き、確かめ合うことでした。これからもこの事を忘れる事なく、共に輝く人生をおくっていかれたらと思っています。

**新垣さん** 僕の「主夫」体験を書いた「窓をあければ」という本の中から、かいつまんで話してみたいと思います。「主婦は知らない」というタイトルの文章を書きました。



パネリストの宮良さん

結婚後、子供を産み育てながらも、職

僕は、別居結婚なんですね。僕は東京、彼女は沖縄にいました。仕事をやめて帰ってきた僕は、仕事をしていないという弱みで家事をしなければいけなかったのです。彼女のチェックがいろいろ厳しく入ってくるわけです。何からなにまでいちいち口をだすので、いやな気持ちでした。それでそんなタイトルになったのです。

二つ目には、「家出用荷物」ということを書きました。ある日、家で探し物をしていると、押入れからバックが見つかりました。僕はハッと気づきました。これは家出用荷物だと。

いかにコミュニケーションをとっていなかったか。気持ちの部分で会話をしてなかったということに気づいたのでした。

「乳幼児健診」ということも書きました。子どもが生まれて、世帯主あてに健診通知がきます。健康審査表を取り出してチェックすると、女性中心で女性が書くものみたいな形になっていました。質問に対してどう返事しようか迷ってしまいました。

次に「惰性の人生」を書きました。メンズリブ全国大会で「父親問題を考える」という分科会に参加しました。その中で子どもを持たないと主張する人がいました。子ども中心の生活をしたくない、だから子どもなんていらぬ。自分はズッと惰性の人生だった。皆がそうするから結婚もした。考えてみると自分で意思決定をしてこなかった。彼がもう一つ言ったのは、自分の人生を自覚的に選ぶということ子どもたちに伝えていきたいということでした。

自分が幸せかどうか、それを自覚的に選び取る力をつけていきたいと思いました。夫婦間もそうなんですが、子どもとも対等な関係が必要です。

自分のことを大切にしてくれる、大事に思ってくれている、それが伝わるということは相手に対しても大切にしようとか、大事に思う心が育っていくんじゃないかと思います。その心が対等な関係につながっていくのだと思います。



講師兼パネリストの新垣さん



コーディネーターの東さん

# 「いしがきプラン」地域推進委員会が学習会 並びに委員会開催

「いしがきプラン」地域推進委員会（小底弘子委員長）が平成14年度委員会並びに学習会が去る11月26日大濱信泉記念館で行われました。

「いしがきプラン」が策定されてから6年が経過し、平成17年度の改訂に向け「いしがきプラン」について理解を深めようと潮平俊さん（石垣市教育委員長）を講師に学習会を行いました。質疑の中で育児休業や介護休暇等の取得についての意見交換があり、また強化すべきは「女性の雇用状況改善の環境づくり」等があげられた。



## 「女性の翼」研修報告

ノルウェー・スウェーデン視察研修

～女性の社会進出は国の施策～  
研修生 當山房子

第19回沖縄県女性海外セミナー

「女性の翼」は平成14年10月15日～25日の11日間、北欧2カ国を訪問した。福祉・環境先進国として世界をリードするノルウェー、スウェーデンは、女性の社会参画に於いても政策が進んでいる国である。

1979年に制定された「男女平等法」もその一つ。法を広く浸透させる行政機関の男女平等センターではオンブット（苦情処理）や広報活動が活発に行われていた。100%の給与補償で44週の育児休暇が取れる。うち4分の1は父親が、しかも最低1ヶ月は義務とされるババクオータ制度の他、看護の為の有給休暇制、所得にとらわれず一律に支払われる児童手当、国が手厚く保護する保育園の整備等々、育児支援策の充実が女性の就業が社会参加をよりスムーズにする為の環境が整えられていることに日本との違いをみる。

ノルウェーでの一夜は沖縄出身

者との交流の場もウチナー女性のたくましさも新鮮に感じられた。スウェーデンの環境行政は「ゴミは資源ある」というのが根本。徹底した分別回収、リユース、リサイクル、グリーンコンシューマーの市民意識は環境型社会を推進する原動力になっている。

1999年「環境法」が制定され21世紀、地球の未来へ環境を保全していく取り組みは近隣諸国共通の視点になっている。

又、高齢者の福祉施策は幾多の変遷の末、施設から在宅へ量か



ケア付き住宅（高齢者施策）

ら質へと転じていた。介護の根本は「住みなれた生活環境を続けることにある」といわれ、グ



ループホームやナーシングホームが特別な住宅として提供されている。ケア付住宅で人間としての尊厳を保たれ安定した老後を過ごしているその姿に触れたとき、約9割の高齢者が自分の老後の生活に不安があると感じている（厚生省統計）日本の高齢者の姿はスウェーデンの高負担、高福祉を自ら選択し人権を重んじる国民との相違を感じさせられた。



# おめでとうございます

## 仲田和江さん・森浩さん夫婦に水産庁長官賞



農林水産省男女共同参画推進本部主催の「男女共同参画に向けての私たち夫婦の取組コンクール」で漁業体験ツアーを行っている仲田和枝さん・森浩さん夫婦が水産庁長官賞を受賞しました。天然資源に負担をかけ、獲るだけの漁業だけでは資源の減少に伴って経営が厳しいものになるため、夏場の3ヶ月間「海人体験ツアー」を始めた。妻の和枝さんが予約受付、料金の精算、安全面の説明を担当し、夫の森浩さんが現場での案内を担当と、二人三脚での運営をおこなっている。参加したツアー客の反応も上々、「こんな素晴らしい体験ははじめて」

とか「この体験を多くの人に・・・」等、感動する客のことばに「いつまでもこの仕事を続けたいね」が二人の合い言葉だそうです。

## 石垣島和牛改良組合女性部に農林水産大臣賞



石垣島和牛組合女性部（前津恵子部長）は、肉用牛生産振興の合理化を奨励し、活性化を図ることを目的に開催された第35回全国肉用牛経営発表会に代表として参加し、組織活動部門で見事、最優秀賞である農林水産大臣賞に輝いた。

肉用牛の飼料の改善、経営安定を図るための努力や、女性経営者としての自覚を持ち自立した経営を目指してきたことが高く評価された。「和牛女性部の輪と和」をテーマに女性部の畜産経営向上の学習会や視察研修、畜産経営における男女共同参画の推進、石垣牛の消費拡大の取り組みなど、過去13年間の活動内容とその成果について発表。

前津会長は「それぞれが自分名義の牛を持ち経営者という自信と誇りを持って活動に取り組んできました。今後も積極的に社会参加と女性の地位向上につとめたい」と喜びいっぱい。

女性部は石垣島和牛組合の下部組織として平成2年6月に結成、現在会員80名。「一人の百歩より百人の一步前進を」目標に活動を展開している。

# 男女共同参画講座2002が閉講

「自分らしく生きるために、あるがままの自分をみつめて、ありたい自分を探し確立する」をテーマに平成14年9月開講した6回シリーズの講座が12月7日で全日程を終了。大湊長照市長より修了証が手渡され、激励の言葉をいただきました。

## 第4回

### ストレスと健康 (自分に合った治療法で快適に)

講師：石垣市健康福祉センター保健師  
長田 節子

元気で快適に過ごすためには、心と体のつながりをよく知ること。更年期は精神的なストレスが症状を悪化させる。ひどいときは医師に相談しよう。

健康な人生をおくるには、①7～8時間の睡眠  
②朝食を欠かせない、③間食をしない、④タバコを吸わない、⑤適切な体重を保つ、⑥規則的な運動をする、⑦度の飲食をしないこと等と人間関係を上手くすること（プレスロー博士の健康指標）から紹介。



## 第5回

### メディアが描き出す女性像・ 男性像

講師：映画批評・劇評家 浦崎 浩 實氏

数々の洋画、邦画の名作を紹介しながら作品の中の女性がどう扱われてきたかを話し、自立した

強い女性を主人公にするとなぜか人気がなく、悲しい運命の女性の作品だと視聴者が多いと話し、男女平等について、現実はまだまだのようですね。



## 第6回

### 海外女性セミナー「女性の翼」 研修報告

研修生 八重山地区介護支援専門員連絡会  
当山 房子氏

海と森に囲まれた豊かさと大自然の恵みを受け循環型社会を目指すノルウェーと、環境・福祉を考え続ける国スウェーデンでの研修を報告。特に高齢者福祉制度や少子対策の子育て支援制度などについての取り組みをわかりやすく映像で紹介。



# 閉講式

大濱長照石垣市長 激励のことば



この世で男性と女性が生活していく中で男では見えづらいところ、女性にはよく見えるところ、また逆に男には、はっきり見えるところといろいろある、両方の良いところを活かすと大変良いまちづくりができると思う。皆様方がリーダーになりまして男女共同参画社会の実現をさらに高めて行きますよう心から期待しています。

受講生代表のお二人



宮良あい子さん

上原晃子さん

宮良あい子さんは「有意義に受講させていただきました。私にもできるものがあるんだ、と感じ周りの仲間にも伝え活かして行きたい。」と話し、上原晃子さんは「男女がお互いに持っている力を発揮して活かせる社会をつくっていく一員になっていきたい。」と感想をのべました。



受講生のみなさん



## 女性問題キーワードNo11

### 固定的（な）性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」「男は主役、女は従」というように、性の違いによって役割を固定してしまう考え方や意識をいう。これは、生活上の役割というよりも、男性優位の関係をつくりあげる背景となっていることから、女性問題を考えるうえでのキーワードであるといえる。また、「男らしさ、女らしさ」もこの意識に基づく、役割への期待が反映されているといわれている。

# 第6回 まるざーフェスティバル



「かがやき 響き合う やいまの女たち」をテーマに第6回まるざーフェスティバルが平成15年3月22日、23日の2日間、市民会館中ホールで開催されました。平和で豊かな社会を創りだすための女性を中心とした諸団体やグループがその活動を一堂に展開し、情報を共有するとともにネットワークの輪をひろげ、相互にエンパワーメントすることを目的に各団体とも日頃の活動の成果をパネル展示や手作りコーナ等でアピールしていました。

2日目は「復帰30年・八重山の女性達のあゆみ」と題してフォーラムが開催されました。

フォーラムでは石垣市女性団体ネットワーク会議会長の潮平俊さんがコーディネーターを務め、大山トヨさんが地域の女性の活動を、山根慶子さんは消費者の会設立の取り組みについて、新絹枝さんは地場産業の伝統織物の歴史を、宮里テツさんは教育界の移り変わりを、農業改良普及センターの宮良悦子さんは農山漁村の30年のあゆみを、それぞれの分野から自身の体験を振り返りながら意見や提言をのべられました。参加した皆さんも大先輩の素晴らしい話に聞き入り感動の連続でした。最後にイラク攻撃の即時中止を求めるアピールを全会一致で採択しました。



パネリストの皆様



## 表紙

まるざーは、八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座になって情報を交換し未来を語り合うことを象徴しています。写真は白保婦人会の皆さん。題字はいしがきプラン地域推進委員会副委員長の平地ますみさん、学校における男女混合名簿の実現にむけ取り組む。